令和６年度（2024 年度）
印旛地区教育研究集会
外国語研究部　提案資料

＜研究主題＞

「外国語教育を通して、他者に配慮し思いや考えを伝え合う活動の探求」

～実践的コミュニケーション能力を高めるＩＣＴを効果的に用いた指導方法の研究～

佐倉市立臼井西中学校　英語科

１．研究主題

「外国語教育を通して、他者に配慮し思いや考えを伝え合う活動の探求」

～実践的コミュニケーション能力を高めるＩＣＴを効果的に用いた指導方法の研究～

２．学校および生徒の実態

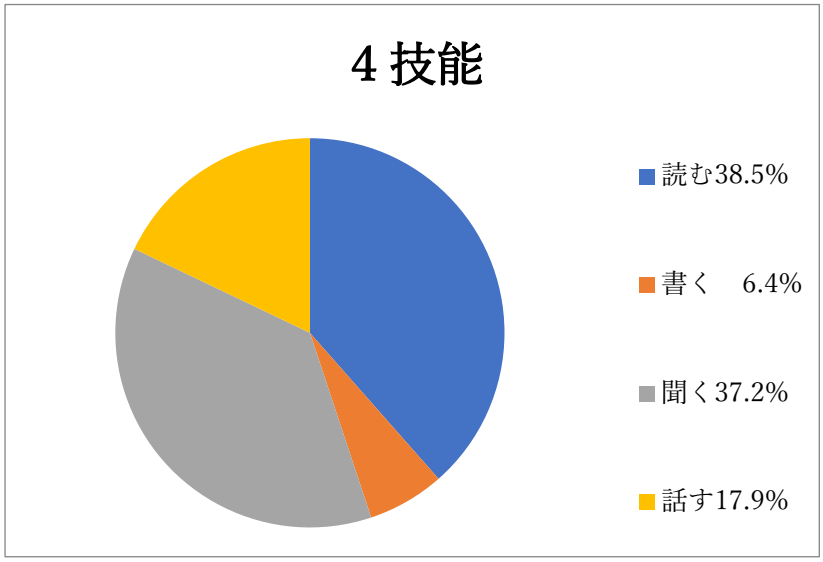
本校は、緑豊かな田園が広がり印旛沼からも近く、自然環境に恵まれた場所に位置する。佐倉市立臼井小学校と佐倉市立王子台小学校の２校の卒業生からなる。全校生徒 259 名、各学年３学級、特別支援が２学級の計１１学級の中規模校である。「生きる力を育む～自分で考え、自分で決められる生徒の育成～」を学校教育目標としている。目指す生徒像は、「①自分で考え、自分で決められる生徒、②自ら学ぶ生徒、③周りと自分を大事にする生徒、④健康管理に努め、体力向上を目指す生徒」である。

生徒は落ち着いており、明るい生徒が多い。地域とのつながりも深く、地域やＰＴＡの人たちと環境整備作業を行ったり、横断歩道を渡った時の生徒の振る舞いについて地域の方々からお褒めの電話をもらったりすることも多い。学習面では、落ち着いて授業に取り組んでいる。ＡＬＴは常駐しておらず、週３日ＪＴＥとともに指導する。習熟度の差が大きく、個性豊かな生徒も多い。英語に苦手意識をもつ生徒や英語が好きで得意な生徒、ある程度の支援を必要とする特別支援学級から授業に参加している交流生徒など、あらゆる生徒が混在している。

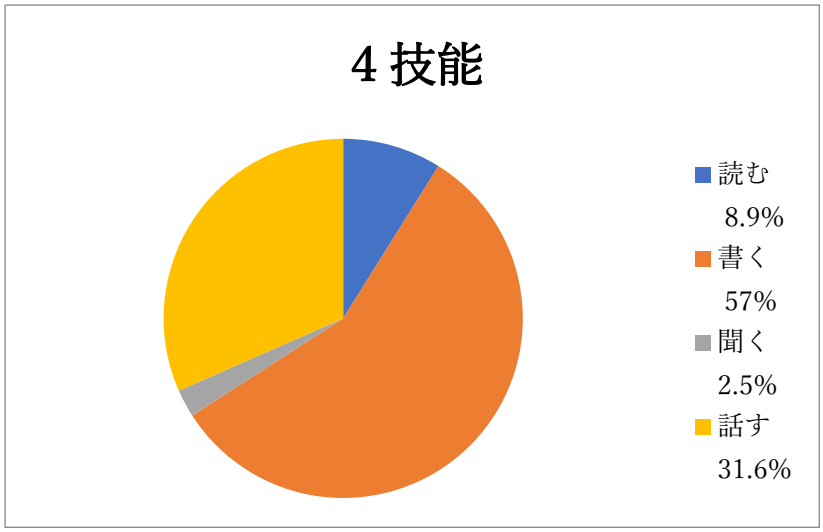
言語活動では、いろいろな生徒とのコミュニケーションを大事にし、相手に思いやりをもって接することが大切である。お互いに気持ちのよいコミュニケーション活動ができるように、基礎学力はもちろんのこと、他者に配慮しながら思いや考えを伝え合う力を高めていきたい。それと同時に、ＩＣＴ機器を活用しながら、英作文や英語を話す力を育てていきたい。

以下は、１年生を対象に、中学３年間の英語力の成長を見据えて研究した生徒の意識調査の結果である。

（１）英語の４技能（読む、書く、聞く、話す）の中で、１番身についていると思うものは何ですか。



（２）英語の４技能（読む、書く、聞く、話す）の中で、１番身につけたい技能は何ですか。



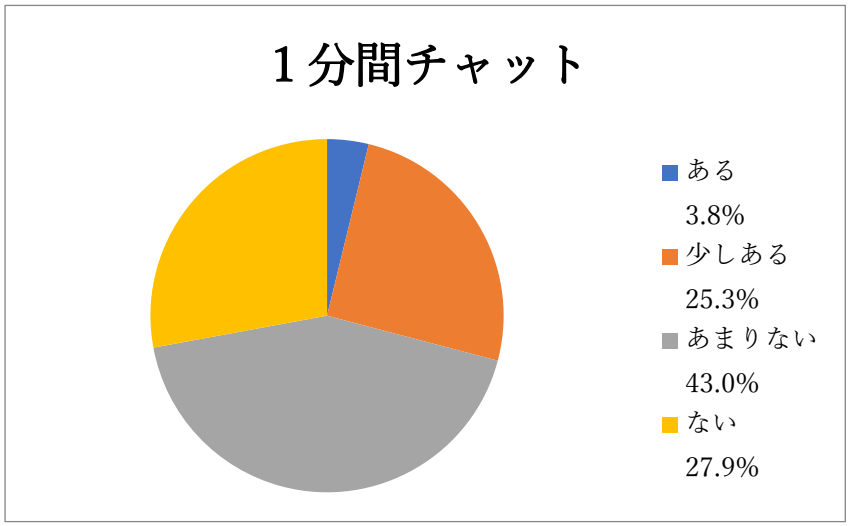
（理由）

・外国人（たくさんの人）と話せるようになりたい。・外国に行きたい。

・文法（単語）などを覚えられるようになりたい。・テストにつなげられる。

・将来役に立つと思う。　など

（３）与えられたテーマについて１分間英語で話し続けることに自信はありますか？



（４）英語で１分間話し続ける力をつけるためには、どんなことが大事（必要）だと思いますか。

・単語（文法）を覚えること

・リアクション

・相手に質問できるようにすること

・相手と会話するという気持ちを意識して、会話をより良くしようとする力が必要

・英語を好きになること

アンケートの結果から、英語の４技能（読む・書く・聞く・話す）の中で、生徒が特に身につけたいと思う技能は「書くこと」や「話すこと」が多いのがわかる。英語を自由に使えるようになったら、「外国人と話したい。」、「外国に行きたい。」と考える生徒が多くいる。また、英作文の力をつけるために、「単語」を覚えたり「文法」を理解したりすることや「4 技能」をしっかり身につけていくことが大事だと考えている生徒も多い。

３．主題設定理由

学習指導要領の目標（３）では、「外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う」ことが求められている。そこで、日常的かつ社会的な内容について、即興で大まかな内容でもよいので思いを伝え合いながら、相手のことを理解しようとする態度を育てていきたい。英語の授業の中で計画的に英語だけを話す時間を確保し、英語だけを話す、または相手に英語だけを話される環境に慣れることで、英語を話すことへの抵抗をなくしていきたい。

千葉県外国語教育推進計画の現状分析によると、千葉県の生徒の「読む」「聞く」力は全国上位だが、「話す」「書く」力は全国平均より低いという結果になっている。また、授業中の生徒の言語活動時間が全国平均より少ないことや、「話す」「書く」を評価するパフォーマンステストの回数が少なく、４技能をバランスよく育成するための指導と評価の一体化を図るため、授業および評価の改善が必要であると示されている。その課題として、「話すこと」「書くこと」の発信型の技能が挙げられている。(「平成２９年度英語力調査結果」「平成３１年度全国学力・学習状況調査」「令和元年度英語教育実施状況調査」参照)

その目的として、「外国語を使ってコミュニケーションをすることを楽しみ、自己の考えなどを主体的に発信する力のある生徒の育成を掲げている。目指す生徒の姿としては、中学校では”Improvise in English”ということで、英語を使って、自分の気持ちや考えを即興で伝え合うことができる。＜即興で伝え合う＞ことが重視されている。そして、①授業の質の向上を図る（英語指導力の向上）②児童生徒の英語力・学ぶ意欲の向上を図る③教員の英語力・専門性の強化を図ることが３つの柱になっている。他にも１０の施策（「授業の質の向上」：ＡＬＴの効果的な活用による授業改善、ＩＣＴを活用した授業、小・中・高連携による学びの接続、「児童生徒の英語力・学ぶ意欲の向上」：民間教育機関との連携による学ぶ機会（時間）の充実、外部検定試験受験の促進、公立高校のおける外国語教育の充実、「教員の英語力・専門性の強化」：専門性の高い教員の活用による授業改善、小学校教員等の英語免許取得の促進、教員の英語力・指導力の強化）も設定されている。

中学校では、小学校で扱う６００～７００程度の語に加えて、１６００～１７００語程度を扱うことになっているため、覚えなければならない英単語の数は倍増する。中学校の授業では、小学校での「話す」ことを主にしながら展開されてきた授業とは変わり、細かい文法内容を理解しがら正確に「書く」力も身につけていかなければならない。

そこで、帯活動の充実を図りたいと考えている。１つ目は、気軽な「１分間のおしゃべり」である。まず、会話で使えるような英文法事項について、教師側がＩＣＴ機器を活用し、生徒がわかりやすく文法事項を身につけられるように工夫していきたい。１分間２人で話し続けることは簡単そうに見えるが、特に英語で話すとなると意外に長いと感じるものである。日常で使われそうな英単語や英語のフレーズを覚え、定期的に話す機会を設定することで、１分間の英語での会話に慣れさせ、気軽に話せるようにさせ

ていきたい。

２つ目は、「絵」を使った活動である。ある絵に関して小グループで即興による英文を考える時間を確保することで、英語に対して苦手意識のある生徒も周りの人たちとの関わりをもち、助け合いながら英語を学ぶ環境を作ることができると考える。１人で英文を考えるよりも、英作文を小グループで考えることにより、グループのメンバー同士がお互いの意見を取り入れたり、アドバイスをしたりと、思いやりの心も育つと考える。英語を得意とする生徒がますます英語に自信をもち、苦手意識のある生徒も楽しく英作文をグループで一緒に考えられるように工夫したい。このような活動をもとに、すべての生徒の自己表現力の向上を目指したい。以上のことから本主題を設定した。

４．研究仮説

仮説１

帯活動の中で、身近な単語をはじめ簡単な英会話や教科書の中にも出てくる単語や語句を書く練習を重ね、話す機会を増やせば、自分のことに関する伝えたい内容を躊躇せずに１分間程度即興で伝え合うことに自信をもてるようになる。

仮説２

同じグループのメンバーや話し相手を思いやりながら、英文を一緒に考えたり、英会話をしたりすることで、コミュニケーションに必要な人間関係の大切さを学び、安心して英語を話したり、英文を書いたりすることができるようになる。

５．研究内容

（１）仮説１より

① 英単語練習

帯活動の中に、身近な英単語や授業で習った英単語の練習を進めた。

簡単なテストを行った。

目的：語彙を増やす。

② ＢＩＮＧＯゲーム

帯活動で書く練習をしてきた身近な英単語や授業で習った英単語を中心に、ＢＩＮＧＯゲームを行った。

目的：生徒が楽しみながら英単語を復習し、正確なつづりを再認識し、語彙力をつける。

③ 日常会話でのフレーズを覚える（資料１）

日常会話の中によく出てくる簡単なフレーズを帯活動の中で練習をする。

目的：全体で練習した後にペアになって質問を出し合い、再び全体で確認していくことで何度も同じフレーズを確認することができる。クイズ形式で楽しく覚えることができる。

④ Dictation 活動（資料２）

帯活動で習った英単語を活用し、空欄に英単語を書かせた。スペルがわからなければ、カタカナでも構わないことを伝え、英語が苦手な生徒も活動に参加しやすい環境を作った。ALT の先生に作成を依頼し、テストを行ってもらった。

目的：英語を聞き取ろうとする力を育てる。

⑤　歌で文法のポイントを覚える

文法のポイントをオリジナルの歌にして覚えた。

目的：新しい文法の使い方やルールを歌にすることで、簡単に覚えることができるようにした。英語を苦手とする生徒も、楽しく歌って一生懸命覚える生徒がたくさんいた。

⑥　One Minute Talk（資料３）

帯活動の中に、ペアで１分間話し続ける練習をする。

目的：会話の中で相手に配慮する心を育てられるように、リアションをはじめ相手を思いやる表現を使えるようになる。即興で英語を話す環境に慣れることができる。

（２）仮説２より

①　絵を活用した英作文

１枚の絵を提示し、小グループで話し合い、提示された絵について説明する英文を考え、グループごとに発表させた。英語に対して苦手意識のある生徒も、メンバーと一緒に楽しく英文を考えたり、発言したりすることができるように、周りの人に配慮するようにした。

（１人１人の話の内容や１人１人の存在を大切にするようにした。）

目的：グループのメンバーを思いやる心を育てる。英作文を即興で作る力をつける。語彙力をつける。

②　ＩＣＴ機器の活用（資料４）

ア、文法事項について、教師がＩＣＴ機器を活用し、「目」で見て「耳」で聞き、「口」で話すことを習慣化することで、よりわかりやすく理解できるようにした。

イ、グループによる絵を活用した英文作りでは、生徒はタブレットを利用し、提出した英文を画面に映し、全体で文法や内容を確認した。

ウ、Forms を活用し、単元ごとに生徒に振り返りをさせた。アンケートを入れ、単元の中で習った文法や教科書の内容についてなどの理解の状態を確認した。その振り返り内容をもとに、再度文法の復習を行った。

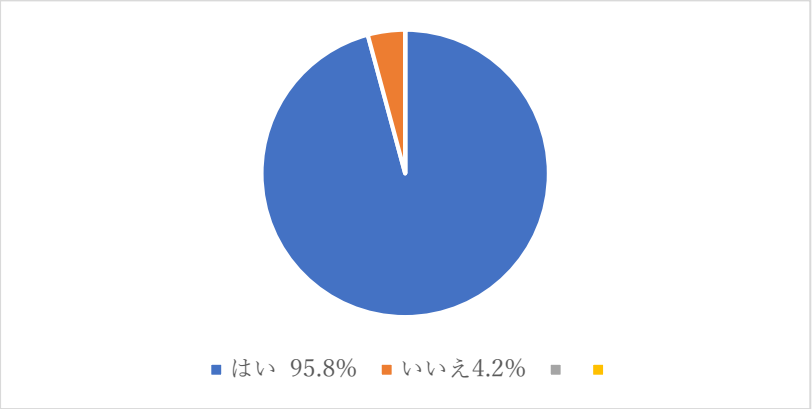
目的：学習する内容を理解しやすくするために、わかりやすい授業展開をする。必要なＩＣＴ機器の操作方法を身につける。効率的な方法を使うことで、時間を短縮する。

６．研究の成果と課題

（１）アンケート結果

以下は、１年間の取り組みを経て行ったアンケート結果である。

①英語の授業のあらゆる活動の中で、思いやりの気持ちをもって参加しましたか。

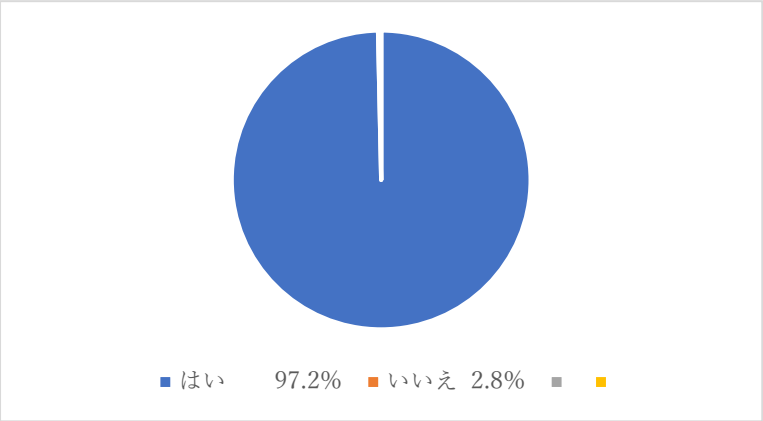


②英語の授業のどんな時に、クラスメートのやさしさを感じることができましたか。

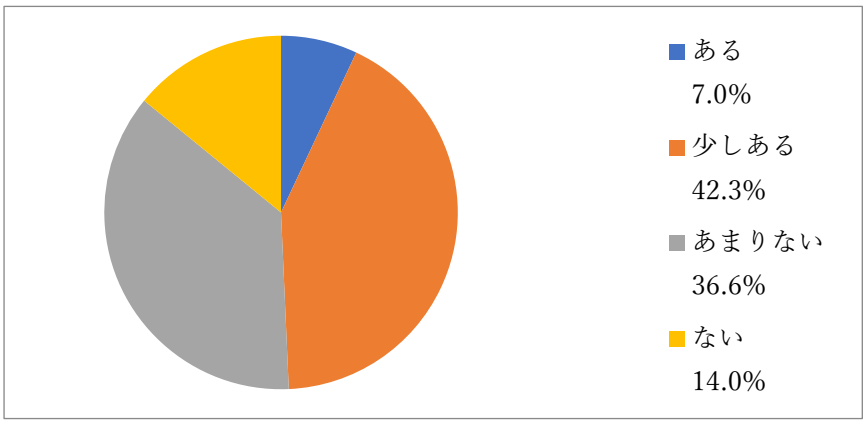
・One Minute Talk の活動時　56.9%　・グループでの活動時　87.5%

・英作文など英語を書いている時　29.2%

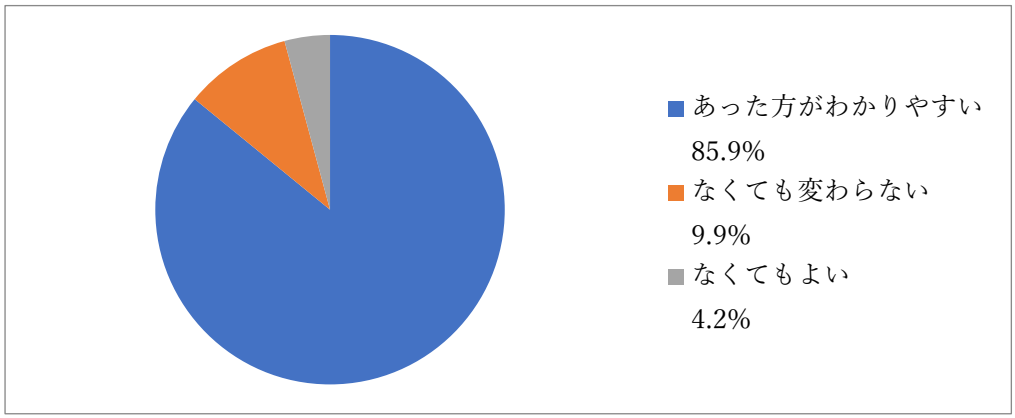
③あなたは英語の授業の中で、他の人の意見を聞いたり、受け入れたりするようにしていますか。



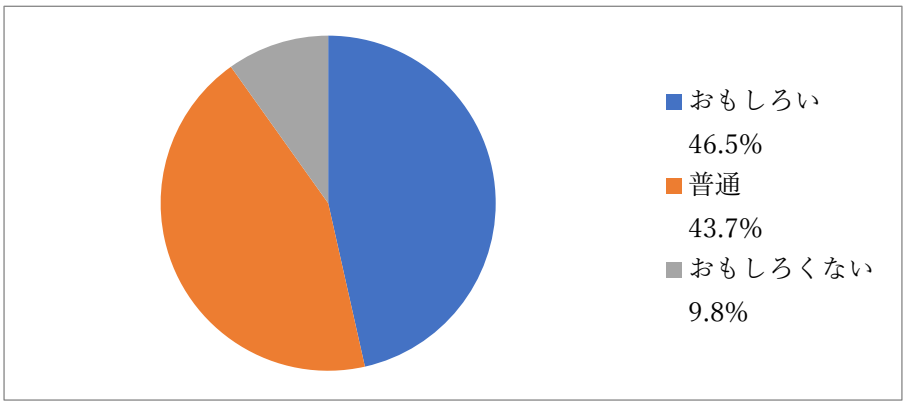
④あなたは与えられたテーマについて英語で１分間話し続けることに自信はありますか。



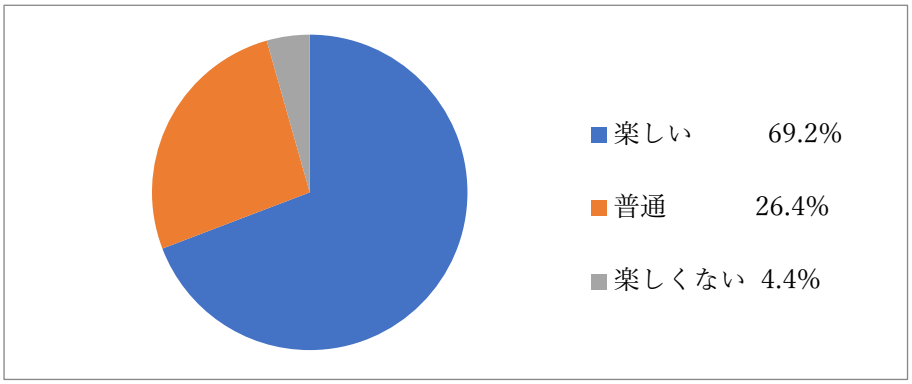
⑤英語の授業でのＩＣＴ機器を使った説明をどう思いますか。



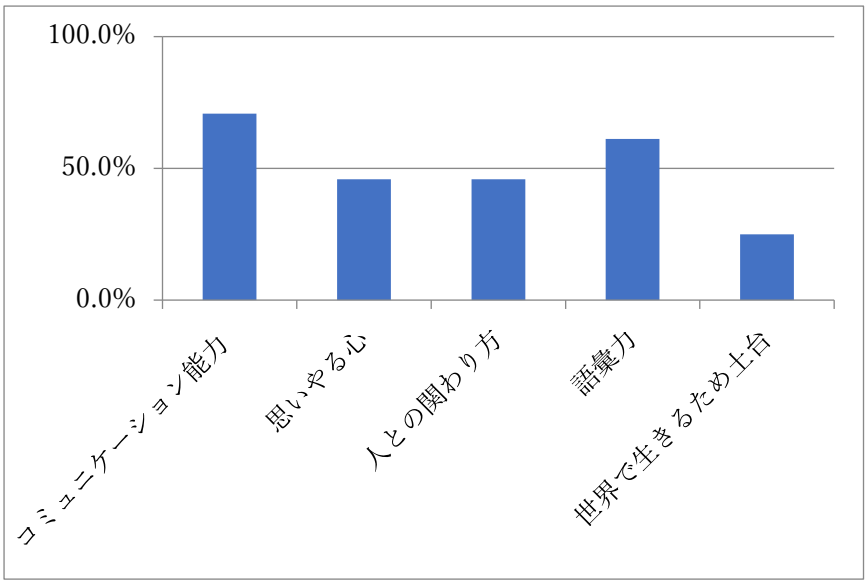
⑥One Minute Talk(１分間おしゃべり)についてどう思いますか。



⑦絵を見てグループで英文を考える活動は楽しいですか。

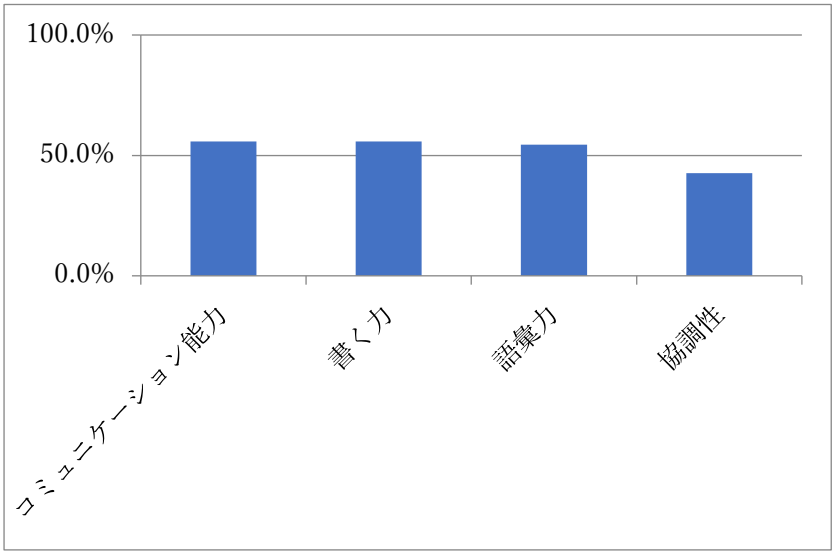


⑧英語の授業全体を通して身についていると思うものは何ですか。



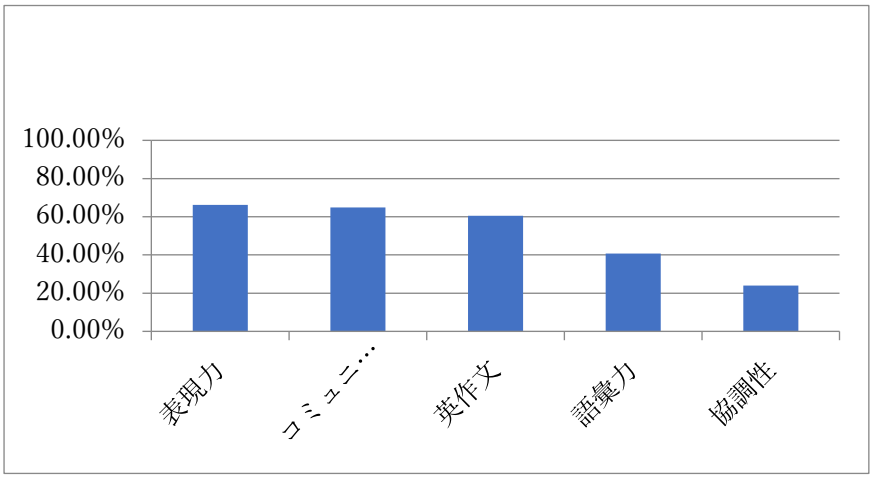
・コミュニケーション能力　70.8%　他の人を思いやること（心がけている）　95.8%
・人との関わり方　45.8%　単語を覚える力　61.1%
・世界で生きるための土台　25.0%　・その他　（英語を書く力、文法、表現力など）

⑨絵を見てグループで英文を考える活動によって、どんな力がついたと思いますか。



・コミュニケーション能力　55.8%　・書く力　55.8%　・語彙力　54.4%　・協調性　42.6%

⑩One Minute Talk（１分間おしゃべり）で身についたと思うことは何ですか。



・表現力（創造性など）　66.2%　・英文を作る力　60.6%
・コミュニケーション能力　64.8%　・協調性　23.9%
・語彙力　40.8%

（２）仮説１について

①成果

与えられたテーマについて英語で１分間話し続ける One Minute Talk（１分間おしゃべり）について、自信をもって話せるようになった生徒が 3.8%から 7.0%に上がった。少し自信がある生徒は、25.3%から 42.3%になった。また、自信があまりない、またはない生徒は、70.9%が 50.7%に減った。授業での生徒の様子から、はっきりとしたテーマを設定することで、話す内容を広げることができていた。活動に使うワークシートの内容を変えていくことで、特にこだわりたい内容が生徒に伝わった。活動を通して、相手を思いやる気持ちが養われることもわかった。

②課題

学力差の影響や１人ひとりの個性から、自分の言いたいことをうまく表現できる生徒となかなかうまく話せない生徒がいる。まずは、語彙力を身につけ、言いたいことについてしっかり話せるようにするために、これからも単語の力をつけていくことが必須である。また、自己肯定感が低い生徒がいるので、自分に自信をもてるように、英語の授業時に関わらず、日頃から生徒の良いところを褒め、個性を伸ばしていきたい。また、１人ひとりの個性を理解しながら、相手を思いやる心を常にもち続け、会話が続くように指導していく。

（３）仮説２について

①成果

ＩＣＴ機器を使ったオリジナルの教材を作成し、文法事項を教える内容については、約８６％の生徒があった方がわかりやすいと答えた。引き続き、オリジナル教材を作成し、生徒に提示していきたい。また、より生徒の関心がもてる内容になるように工夫していきたい。また、タブレットを使って振り返りのアンケートをとることで、単元によって生徒が得意とする文法や苦手とする文法が明らかにわかり、復習に役立てることができた。絵を見てグループで英文を考える活動については、約７０％の生徒が楽しいと答えており、個人で考えるよりも小グループで学習する方が楽しいと感じる生徒が多かった。グループで自由に発言する時間を作ることで雰囲気が和み、自主的に教科書で意味を調べたりお互いに教え合ったりすることで、楽しく英語を学習する雰囲気作りをすることができた。グループによっては、英文を作るのに時間がかかってしまうことがあったので、生徒から出てくる単語にヒントを与えながら英作文に挑戦させたことで、効率的に作文することができた。また、タブレットを使ってスクリーンに映し出し全体で確認することで、間違えやすい文法などを効率的に全体で確認することができた。今までの結果、61.1%の生徒が「絵を見てグループで英作文をすること」を英語の授業の好きな活動の１つとしてアンケートに答えていた。

②課題

ＩＣＴ機器の場合、操作にトラブルが出てしまったことがあったので、状況に応じて紙媒体を使うなど工夫していく。生徒はタブレット操作に慣れているので、いろいろなソフトの活用をしていきたい。絵を見て英文を作る活動については、引き続き、英語が苦手な生徒も積極的に参加することができるように日頃の帯活動で語彙力をつけ、単語からグループ全体に提案できるようにしていく。小グループの活動を増やし、まず小グループの中で自信をつけ、１人ひとりが積極的に発表できるような活動ができるようにしていく。小グループで自信をもつことで、全体での発表への自信に結びつけていく。

（４）まとめ

英語の４技能の中で、特に「書くこと」と「話すこと」の力を身につけたいと思う生徒が多いので、絵を活用したり、生徒同士が話す活動を取り入れたりした結果、生徒同士の仲も良くなっている様子が見られた。１年生の頃は主に２つの小学校から集まってきた生徒たちだが、２学年になり、学年集会が開かれた時に、「２学年の仲は良い方だと思う人」と聞いたところ、９割以上の生徒が手を上げていた。英語の授業も影響しているかはわからないが、これからも生徒がお互いの個性を認め合い、相手を思いやる気持ちを大切にしながら英語の授業を進めていきたい。

相手に話そうとする気持ちがある一方、話そうとする英単語がわからず話せなくなってしまう状況が

多くの生徒の中で見られた。英語でのコミュニケーションを円滑に図るため、帯活動での単語練習をうまく活用していきたい。また、１人で活動するよりも、グループで活動する方を好む生徒が比較的多いことがわかった。グループ活動を取り入れていくことで、まずはグループ内で自信をもって発言できるようにし、その後の全体での発表につなげていきたい。英語だけを話す機会や日常的によく使われる表現に触れる機会を当たり前のように設けることで、生徒は英語を話すことに慣れ、少しずつ自然に英会話の仕方を身につけられることがわかった。「書くこと」と「話すこと」の力の向上に焦点を当てて指導をしてきたが、どの活動も他の技能である「聞くこと」や「読むこと」につなげながらバランスよく力を伸ばすことができた。どの技能も、最終的には他の技能の向上にもつながっていた。

生徒のアンケートから、ビンゴ、歌、絵を見てグループで英作文をすること、クイズなどが英語の授業での好きな活動に挙げられていた。これらの活動をうまく取り入れることで、４つの技能全ての向上を図りたい。日本はもちろんだが、どの国にもいろいろな人がいるので、生徒にはどんな人とでも思いやりをもちながら会話ができるようになってほしいと考える。これからも英語の学習を通して、「人としての温かさ」や「思いやりの気持ち」を育んでいきたい。